デイリー・マーケット・レポート

東京市場デイリー・レビュー／2026年11月10日（火） 発行：ていネコの投資ノート

1．本日のサマリー

- **日経平均は前日比1,684.08円高の60,459.58円と2日続伸し、3営業日ぶりに6万円台を回復した。**TOPIXも75.55ポイント高の3,893.71と続伸したが、上昇率は日経平均の+2.87%に対し+1.98%にとどまった。
- **主因は米半導体株の急反発と原油安。**9日の米国市場でSOX指数が+6.85%と急伸し、前週に売り込まれたAI・半導体関連に買い戻しが入った。米国とイランの協議進展への期待からWTI原油が86.85ドルへ下落し、インフレ懸念の後退も支えとなった。
- **上昇は値がさ株に偏った。**寄与度上位のソフトバンクG、アドバンテスト、東京エレクトロンの3銘柄で上昇幅の約55%を占めた（筆者算出）。一方、プライム市場の値上がりは1,203銘柄に達し、食料品や輸送用機器は下落した。
- **焦点は今夜の米10月消費者物価指数（CPI）。**大引け後にはソフトバンクGが中間決算を発表。欧州時間にはウォラーFRB理事がタカ派的な発言をした。

2．主要指標

指標	水準	前日比	備考
日経平均	60,459.58	+1,684.08	+2.87%。2日続伸、高値60,743.97
TOPIX	3,893.71	+75.55	+1.98%。2日続伸
NT倍率（筆者算出）	15.53		前日15.39
東証プライム売買代金	9兆1555億円		概算値
値上がり／値下がり銘柄数	1,203／328		変わらず20。33業種中24業種が上昇
新発10年国債利回り	2.690%	+0.025	終値（共同通信・DZH）
2年債利回り	1.770%	-0.010	終値（日本相互証券）
5年債利回り	2.100%	+0.015	終値（日本相互証券）
20年債利回り	3.580%	+0.030	終値（日本相互証券）
30年債利回り	3.865%	+0.025	終値（日本相互証券）。入札は低調
長期国債先物12月限	127.68	-0.18	寄付127.70
ドル円	158.07	+0.16	15時40分ごろ。前日NY終値比
ユーロ円	177.42	+0.19	15時40分ごろ。前日NY終値比
NYダウ（9日）	52,389.75	+1,104.02	+2.15%。反発
S&P500（9日）	7,549.94	+173.08	+2.35%。続伸
ナスダック総合（9日）	25,253.14	+673.72	+2.74%。続伸
SOX指数（9日）	10,033.93	+643.68	+6.85%。半導体株が急反発
米10年債利回り（9日）	4.88%	+0.02	NY終値
WTI原油12月限（9日）	86.85	-3.98	ドル。-4.38%
NY金12月限（9日）	4,114.5	+39.6	ドル。COMEX先物
CME日経平均先物（9日）	60,935		清算値（円）
韓国KOSPI	5,239.13	+220.28	+4.39%。半導体株が上昇
上海総合	3,663.72	+2.93	+0.08%
香港ハンセン	24,557.04	+108.09	+0.44%

金利（国債利回り）の前日比の単位は%ポイント。

3．株式市場

前場：米半導体株高を受けて買い先行

日経平均は大幅高で寄り付き、AI・半導体関連への買い戻しで上げ幅を広げた。9日の米国市場ではナスダック総合が+2.74%、SOX指数が+6.85%と大きく上昇しており、東京市場の値がさハイテク株にも見直し買いが入った。

後場：大引け前に高値更新、6万円台を回復

後場は高値圏でもみ合った後、大引け前に一段高となり、高値は60,743.97円と一時2,000円近い上げ幅となった。終値は5日以来3営業日ぶりに6万円台を回復した。原油安を受けたインフレ懸念の後退から、銀行や鉄鋼などの景気敏感株にも買いが広がった。

物色動向：半導体・電子部品が主役、内需・自動車は軟調

業種別では33業種中24業種が上昇し、電気機器、繊維製品、機械、銀行、ガラス・土石が上昇率の上位に並んだ。下落はその他金融、輸送用機器、食料品、医薬品、陸運など。個別では、上期の大幅増益を発表したKOKUSAI ELECTRICのほか、レーザーテック、ディスコ、キオクシアHDなど半導体関連が大きく上昇した。一方、業績予想を下方修正した太平洋セメントや、7～9月期が最終赤字となったアイスタイルは売られた。寄与度ではキッコーマンが33.37円の押し下げで最大だった。

相場の位置づけ：急落後の買い戻し局面

前週は米中間選挙の結果を受けてAI・半導体関連が売られ、6日には日経平均が過去3番目の下げ幅を記録した。今週は9日の6日ぶりの反発に続く2日続伸となった。東証プライムの売買代金は9兆1555億円で、急落した6日の12兆4808億円を下回った。指数への寄与はソフトバンクGなど3銘柄に集中した一方、値上がり銘柄はプライム市場の約78%に及んでおり、寄与の集中と上昇銘柄の広がりが同時に見られた。

4．本日の主題：値がさ半導体が押し上げた日経平均、NT 倍率は再び上昇

10 日の上昇は、日経平均の+2.87%に対し TOPIX が+1.98%と、日経平均の上昇率が際立った。寄与度上位のソフトバンク G（381.87 円）、アドバンテスト（283.71 円）、東京エレクトロン（259.91 円）の 3 銘柄だけで 925.49 円と、日経平均の上昇幅 1,684.08 円の約 55%を占めた（筆者算出）。NT 倍率（日経平均÷TOPIX）は 9 日の 15.39 から 15.53 へ上昇した。

前日 9 日とは相場の性格が異なる。9 日はほぼ全業種が上昇する全面高で、TOPIX の上昇率が日経平均を上回り、NT 倍率は低下していた。前週の急落局面で売られた銘柄が幅広く買い戻された 9 日に対し、10 日は米国で急反発した AI・半導体の値がさ株に買いが集中し、指数寄与度の大きい一部の銘柄が日経平均を押し上げた。

ただし、半導体株の戻りは米国株の反発に支えられた面が大きい。NT 倍率は 5 日の 15.50、6 日の 15.49 とほぼ同じ水準に戻ったにすぎず、AI 投資の採算性をめぐる不透明感が解消したわけではない。今夜の米 CPI が上振れて米長期金利が上昇すれば、値がさハイテク株が再び売られ、日経平均が TOPIX 以上に下げる構図に戻りやすい点に注意が必要だ。

5．債券・金利

国内債は売りが優勢となった。新発 10 年国債利回りは前日比 0.025 ポイント上昇の 2.690%で引けた。財務省が実施した 30 年債入札が低調な結果となり、超長期債を中心に売りが出た。長期国債先物 12 月限は寄付 127.70 円から軟化し、0.18 円安の 127.68 円で取引を終えた。日本相互証券の終値では、2 年債が 1.770%と小幅に低下した一方、20 年債は 3.580%、30 年債は 3.865%といずれも上昇した。原油安はインフレ懸念の後退を通じて債券の支えとなる材料だが、株高と入札の弱さが上回った。米国でも 9 日の 10 年債利回りが 4.88%と 0.02 ポイント上昇しており、内外とも金利は下げ渋っている。

6．為替・商品

ドル円は東京時間に 158 円を挟んでもみ合い、仲値にかけて一時 158.12 円まで上昇した。15 時 40 分ごろは 158.07 円で、前日の NY 終値比 0.16 円の円安。ユーロ円も 177.42 円と底堅い。欧州時間にはウォラー FRB 理事のタカ派的な発言を受けてドル買いが入った。商品では、9 日の WTI 原油 12 月限が前週末比 3.98 ドル安（-4.38%）の 86.85 ドルと、終値で約 2 カ月半ぶりの安値となった。トランプ米大統領がイランとの協議が進む限り攻撃再開の可能性は低いとの見方を示し、中東の供給不安が和らいだ。NY 金 12 月限は 4,114.5 ドルに上昇した。

7．海外市場の動向

9 日の米国市場は主要 3 指数がそろって上昇した。NY ダウは 1,104.02 ドル高の 52,389.75 ドルと反発し、S&P500 は+2.35%、ナスダック総合は+2.74%。前週に急落した AI・半導体株が買い戻され、SOX 指数は 10,033.93 に急伸した。CME 日経平均先物の 9 日清算値は 60,935 円で、10 日の東京市場の終値はこれをやや下回った。10 日のアジア市場も軒並み高く、半導体比重の高い韓国 KOSPI はサムスン電子や SK ハイニックスが上昇して+4.39%、台湾株も大幅高となった。一方、香港ハンセンは+0.44%、上海総合は+0.08%の小幅高にとどまった。中国の 10 月貿易統計では貿易黒字額が市場予想を下回った。韓国・台湾では半導体株高が目立った。

8．直近の推移

日付	日経平均	前日比	TOPIX	10 年債	売買代金
11 月 5 日（木）	61,077.90	-1,110.73	3,940.39	2.770%	11 兆 7850 億円
11 月 6 日（金）	57,434.77	-3,643.13	3,707.99	2.635%	12 兆 4808 億円
11 月 9 日（月）	58,775.50	+1,340.73	3,818.16	2.665%	8 兆 9118 億円
11 月 10 日（火）	60,459.58	+1,684.08	3,893.71	2.680%	9 兆 1555 億円

10 年債は日本相互証券の新発債終値で統一。本文・主要指標の 10 日の値（2.690%）は共同通信・DZH が報じた終値で、提供元により 0.010 ポイントの差がある。売買代金は東証プライムの概算値。

9．総括と注目点

10 日の東京市場は、米半導体株の急反発と原油安を追い風に、前週に売り込まれた AI・半導体関連が買い戻される展開となった。ただし上昇の中身は値がさ株に偏り、NT 倍率は前週の水準に戻ったにとどまる。国内金利は 30 年債入札の低調を受けて上昇し、株高と金利上昇が並行した。日経平均が 6 万円台を保てるかは、米国のインフレ指標と AI 関連企業の決算が、AI 投資への警戒感を和らげるかどうかにかかっている。

- **米 10 月 CPI（10 日夜、日本時間 22 時 30 分）**：上振れれば米長期金利の上昇を通じてハイテク株の重荷となる
- **ソフトバンク G の中間決算（10 日大引け後）**：旧ブリッジローンの期限前返済に伴う調達コストの一括償却を含み、赤字額だけでは判断しにくい
- **米コアウィーブの 7〜9 月期決算（日本時間 11 日朝）**：AI クラウド需要と設備投資負担を見極める材料
- **FRB 高官の発言**：ウォラー理事のタカ派的な発言を受けた利上げ観測の行方が、米金利とドル円を左右する

【脚注】本レポートの数値は 2026 年 11 月 10 日（火）18 時 40 分ごろまでに取得した公開情報に基づく。国内株価は大引けの値、東証プライムの売買代金は概算値。米国市場・商品は 11 月 9 日（月）の終値・清算値、アジア株は 10 日の終値。前日比・騰落率は前営業日の値から筆者が算出・検算した。NT 倍率、値上がり銘柄の比率、寄与度の合計とその比率は筆者算出（寄与度はフィスコ「日経平均寄与度ランキング（大引け）」に基づき、値上がり・値下がり銘柄の寄与の差が日経平均の前日比と一致することを確認。単一系統）。単一出典の数値：変わらず銘柄数はウエルスアドバイザーのみ、2 年・5 年・20 年・30 年債と直近の推移の 10 年債は日本相互証券のみ、国債先物の寄付はフィスコ「日本国債市場」のみ、ドル円・ユーロ円（東京高値を含む）と NY 金は DZH のみで確認。出典間の差異：Media-IR の 10 日記事は TOPIX を 3,897.79 としたが、株探・ウエルスアドバイザー・DZH の 3,893.71 を採用。ナスダックの前日比は一部報道で+673.71 とされたが、FRED 掲載の前営業日終値 24,579.42 からの算出値+673.72 を採用（差は前営業日終値の 0.01 の違いによる）。本レポートは生成 AI を用いて公開情報を整理・執筆した。出典：株探、フィスコ（財経新聞・ザイ）、ウエルスアドバイザー、DZH（OANDA・MyForex 掲載）、共同通信、日本相互証券、Media-IR、ニューズウィーク日本版、MINKABU PRESS、The Weekend Spread、Odaily、Nasdaq、FRED（セントルイス連銀）。

本資料は公開情報に基づく市況の整理であり、特定の銘柄の売買を推奨するものではありません。投資判断はご自身の責任でお願いいたします。